

ブロックチェーン-IoT マイクロペイメント デモ



「Bank of Things」

IoT バンキングが発達した世の中では「モノ」が、セキュアなマイクロペイメント、ブロックチェーン、そしてIoT テクノロジーを通じて互いに決済することが可能になります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャルグループ (MUFG) とシリコンバレーのIoTのパイオニアであるAfero, Inc. は、IoT バンキングの新しいソリューションを共同で研究中です。

「Bank of Things」とも称されるこの共同研究は、次世代の決済ネットワークをセキュアなIoTプラットフォームと統合し、格段に低コストでこれまでにない高速度のマイクロペイメントを実現することを目的とします。

低コストのマイクロペイメント処理が可能になることで、マイクロトランザクション数の大幅な増加が見込まれます。これにより、新市場の創造・参入が期待出来るほか、IoTの重要な使命でもある、「より自由」で「より素晴らしい」ユーザー体験を提供することにも繋がります。

CEATEC JAPAN 2018 デモのご案内

是非お時間を割いて当ブースにお立ち寄り頂き、Afero IoT Platform™ と MUFG の次世代決済プラットフォームを統合したマイクロペイメント処理のイメージを、クラウド接続デバイスを使ったデモンストレーションでご体験ください。

デモンストレーションでは、モバイルアプリを通じたセキュアな支払の例を3通りお見せします。

なお、本事例における重要なポイントは、決済の処理が大変高速であり、応答が直ぐに必要な少額の取引においても実用的であることです。

[デモンストレーションの一例] アパートの短期賃貸

オーナーは賃貸料を低く提示したいとします。その場合、「誰もが必要とするサービスのみを基本費用に含め、その他のサービス、例えばエアコン、洗濯機、追加照明などは別料金のオプションとして提供する」といった方法で賃料を抑えることができます。この場合、借入人は必要に応じて追加サービス料を利用時間分、または使用する毎に支払えば良いこととなります。